

## 2019年度（後期）海外渡航旅費助成金成果報告書

北海道大学大学院 理学院 修士課程 2年

平 亨

日本地震学会より海外渡航旅費助成金をいただき、2019年12月9日から13日までアメリカ合衆国・サンフランシスコで開催された American Geophysical Union (AGU) Fall Meeting に参加しましたので、ご報告致します。

今回、「Radially Anisotropic S-wave Structure of Australian Upper Mantle: Trans-dimensional Hierarchical Bayesian Inversions of Receiver Functions and Multi-mode Surface Waves」というタイトルで、オーストラリア大陸下の地殻・上部マントル速度構造推定について、大会2日目にポスター発表を行いました。

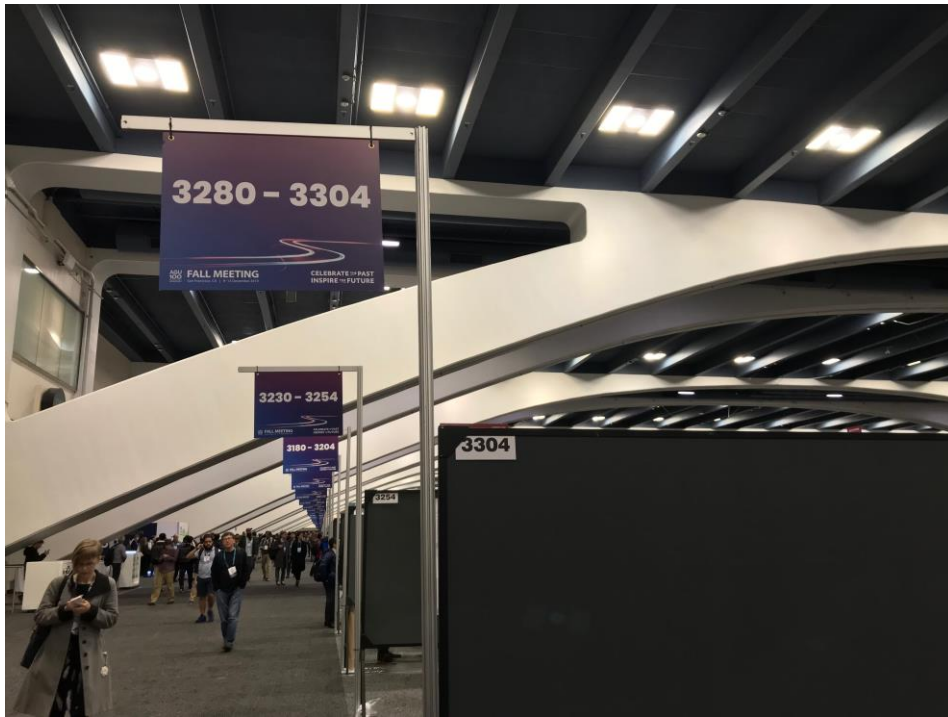
当日、セッション開始時間となり、ポスターを貼ると、すぐ3人の方々が足を止めて見てくださいました。その後も様々な国・地域の学生や、論文で何度も目にするような著名な先生方が聞きにいらしてくれました。発表は、Bayesian inversionを知っている方に対しては、苦労は比較的少なかったですが、知らない方に対しては、どのように Bayesian inversion の計算過程を簡潔に且つ分かるように説明するか、難しいと感じました。

“Very interesting” という言葉を多くいただいた一方で、“Just five (seismic) stations?? Apply to more stations!” と速度構造を推定した点の数(今回発表したのは5観測点下)が少なかったことに対する指摘も多かったため、応用する観測点の数を増やすことが直近の Future work となりそうです。

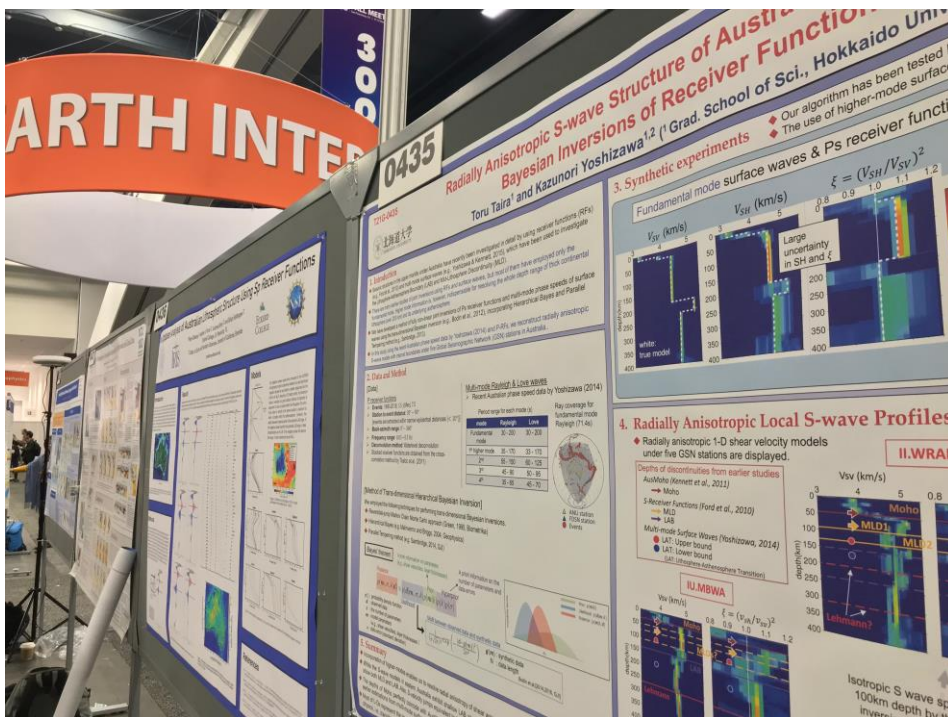
私の他にもオーストラリアの地殻・上部マントル構造に関する発表がいくつかあり、私の結果がそれらと整合的かどうか確認して回っていました。手法の違いに起因する差は見られましたが、それでも大筋 consistent だったので安心しました。その中で、私の隣でオーストラリアのレシーバ関数に関する発表を行っていた学生が、学部3年生であったことには少々驚きました(彼女はレシーバ関数研究の第一人者 Heather Ford のインターン生とのことでした)。世界には、様々なパターンがあるのだな、と実感しました。

海外に出るのは数年ぶりで、少々不安な気持ちで日本を出ましたが、以上のような素晴らしい経験ができ、結果的に日本に無事帰って来ることができよかったです。

最後になりましたが、今回個人的にも懐が厳しい状況でありましたが、本助成金のおかげで比較的余裕を持って AGU Fall Meeting 2019 に参加することができました。ご支援いただいた日本地震学会及び関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



延々と続くポスター会場（左半分に注目）.



私のポスターの様子（手前）. 奥が例の学部3年生のポスター. 同じオーストラリア地殻・上部マントル構造の研究だったが、結果はおおよそ一致していた. この2つのポスターをセットで見に来る人が多かった.